



吉岐市長
内 博一

白砂青松の豊かな自然、人情味溢れる風土、新鮮な海の幸そして米いちご・メロン・マンゴー・吉岐牛などの豊かな農産物、そして麦焼酎発祥の地として有名な吉岐焼酎・まさに吉岐は「グルメの島」です。

そして吉岐は「歴史の島」でもあります。太古の昔から、東アジアと日本との交易の拠点として栄え、島内には貴重な遺跡や歴史遺産がいくつも点在しています。特に中国の史書「魏志倭人伝」に登場し、その王の都として初めて場所が特定された弥生時代の環濠集落「原の辻遺跡」は、国の特別史跡に指定され、歴史的価値の非常に高い貴重な品々が数多く出土しています。

こうした貴重な歴史遺産を活かすべく、平成22年3月14日吉岐市立支国博物館・長崎県埋蔵文化財センターがオープンし、悠久の歴史を堪能できる施設として、大変好評を得ています。この博物館を拠点に、吉岐を全国そして世界に情報発信し、交流人口の拡大を図るとともに、農業・漁業はもとより地場産業の振興を図っています。

そして、平成23年4月、吉岐市にとって画期的な事業である、光ケーブル網の整備が完成するとともに、吉岐市ケーブルテレビが開局しました。災害時における情報の伝達をはじめ、吉岐市民の皆様が主役となる様々な情報の発信に努めています。

このように、日々刻々と変化する情勢の中で、「海とみどり、歴史を活かす癒しの島 吉岐」の実現とさらなる飛躍に向け、様々な取り組みを実践しています。

この市勢要覧は、こうした吉岐市の魅力や活力ある産業、そして様々な分野で活躍される市民皆様の様子などを紹介しています。

この冊子が吉岐市のまちなじみ・地域しほりをよく理解いただくための助になれば幸いです。

(平成23年2月)

吉岐市行政区のあゆみ

- 明治4年7月14日 廃藩置県により平戸県となる。
- 明治4年11月14日 長崎・平戸・島原・福江・大村を合わせて長崎県の管轄となる。
- 明治5年2月 区制施行により、吉岐を第76大区・77大区・78大区の3大区とし、浦を村に合わせて22小区(22村)に区分。吉岐の自治制の基礎ができる。
- 明治6年12月 3大区を廃止し、全島を第30大区とする。
- 明治11年10月 郡区町村編制法が制定され、吉岐郡・石田郡の2郡となり22村に分けられる。
吉岐石田郡役所が武生水村に置かれる。
- 明治22年4月1日 市町村制施行により、吉岐・石田の2郡、12村(武生水村・渡良村・柳田村・沼津村・志原村・初山村・香椎村・鯨伏村・田河村・那賀村・箱崎村・石田村)となる。
- 明治29年4月1日 吉岐・石田の2郡を合併、吉岐郡となる。
- 大正11年8月 吉岐総村組合設立。
- 大正14年4月1日 武生水村が武生水町となる。
- 大正15年7月1日 吉岐郡役所を廃止して吉岐支庁が設置される。
- 昭和10年4月1日 香椎村が勝本町となる。
- 昭和22年11月3日 田河村が田河町となる。
- 昭和23年4月1日 吉岐郡12町村をもって吉岐郡町村組合を設立する。
- 昭和30年2月11日 町村合併促進法により、武生水町・渡良村・柳田村・沼津村・初山村・志原村の6町村が合併して郷ノ浦町となる。
また、勝本町・鯨伏村が合併して勝本町となる。
- 昭和30年4月1日 田河町・那賀村が合併して芦辺町となる。
- 昭和31年9月30日 芦辺町に箱崎村を編入する。
- 昭和33年4月1日 郷ノ浦町の久喜触を石田村に編入する。
- 昭和36年4月1日 芦辺町湯岳地区の射手吉触・興触を石田村に編入する。
- 昭和45年8月1日 石田村が石田町となる。
- 昭和56年4月1日 吉岐郡町村組合を吉岐広域圏町村組合と改称する。
- 平成16年2月29日 合併に伴い吉岐広域圏町村組合が解散する。
- 平成16年3月1日 郷ノ浦町・勝本町・芦辺町・石田町が合併して吉岐市となる。

